

小田急新型ロマンスカーで「天下の険」へ

石川県 河崎仁衛

満開の桜に埋もれる大社で、父との出会いに胸を膨らませながら、早朝 6 時、まだ目の覚めやらぬ金沢駅のシンボル「鼓門」をくぐり抜け車窓の人となった。

此の 2 月に 37 年振りの大雪に見舞われた北陸は陸路、空路がマヒ状態となり、白一色の陸の孤島と化してしまいました。

その様な状況にも関わらず、唯一、3 年前北陸経済の浮き沈みを背負って開通した北陸新幹線だけは寸分の誤差もなく金沢～東京間を走り続けていました。

総理大臣当時、我田引鉄と揶揄されながらも、15 年後に自らの信念を曲げることなく「フル規格軌道」で、金沢開業にこぎ着けた、森元首相の英断に我慢の甲斐があったのではないか……

そんな思いを巡らすうちに、8 時 32 分「かがやき 500 号」は東京駅に音もなく滑り込んだ。急いで九段下のエスカレーターを降り、大鳥居の前で一礼すると「4,5 日遅かったな」(桜の満開)そんな声は何処からか聞こえたような気がした、自然は儘ならぬものですね。

先月、新営業となった特急新型ロマンスカーの展望車席より眺める相模の国は小田急沿線と小規模な農地を串刺しにし、多摩川、相模川、酒匂川を渡り、小田原駅に着いた。

車窓左側には秀吉の小田原攻めで名高い小田原城が雄姿を誇示している、言わずと知れた現在の神奈川、東京、埼玉、群馬辺りを勢力圏に乱世に名を連ねた北条一族の居城である。

小田原から終点までの 20 分余りはさすがの新型車も少し喘ぎながらの山登りである、沿線に咲く桜の花に励まされながら、無事箱根湯本に着いた。

流石に天下の名湯箱根温泉郷の玄関口湯本温泉は観光客でごった返し、狭い急坂の多い温泉街をフラットバスに乗って、今日お世話になる老舗旅館岡田屋に 10 分くらいで到着した。旅の疲れは湯船で癒すのが一番です、源泉かけ流しの弱アルカリ性単純泉に浸りながら、夕食の料理を思い浮かべる……

こんな自分は贅沢すぎますかね、ミレー島で直弾を受け散ったと聞く、父に少し悪いような気がしました。

懇親会は盛況であり、お酒も進み、酔うほどに歌も軽やかとなり、皆さんの満足そうな笑顔に今回も参加して良かったなと思った次第です。

相模湾の新鮮な魚介類をふんだんに並べた、バイキング朝食を美味しく頂き、二日目が始まりました。

その昔、箱根の山は「天下の険」と謳われた難所であり、気を引き締めて岡田屋を址にした。しかし、現在の箱根といえば強羅まで「登山電車」、早雲山まで「ケーブルカー」、大涌谷、姥子、桃源台までは「ロープウェイ」、そして芦ノ湖は「海賊遊覧船」に乗って箱根峠の関所に辿り着くようになっています。

マーシャル方面遺族会慰霊祭の靖国神社参拝手形は効果新たかで、全員即座に通行が許され、箱根登山バスに乗り換え、大学駅伝の六区走者になったような気持ちで、小田原駅に戻った。道中は晴天に恵まれて、大平台の桜に見惚れ、大涌谷の黒卵を飽ばり、ロープウェイより芦ノ湖越えの富士山に期待したのですが、やはり今の時期無理だったようです。

桃源台からの海賊遊覧船は名前に似合わず静かに芦ノ湖を渡った。

しかし、乗船客はわし鼻の西洋人が多く、彼らには旅慣れたどことなく気品を感じるものがあります。



向かいの二つの国の人意外と少なかったのが幸いでした。
小田原駅周辺の食事処で予定より少し遅れた昼食を済ませ流れ解散となった。
今回はバス旅行と違って、企画並びにインストラクターまで勤めて頂いた、
清水副会長のご苦勞に大変感謝致します。
また、須藤、安藤さん新幹線にうまく乗れたかな、そんなことを念じながら、
私は翌日、元気で金沢に帰ることが出来ました。
皆様来年も元気で会いましょう。